



今、私たちにできること2

～学校再開後、子供の心のケアにどう向かい合うか～

緊急事態宣言の5月31日までの延長が正式に決定しました。ただし、全国13の特定警戒都道府県以外では、「(行動制限の)一定の緩和」は行われることになりました。このことから、昨日の宮城県の対策会議でも休業要請を本日解除する方針が示されましたが、学校は密集の可能性が高いことから、準備まで時間が必要なことを考慮され、31日までの休校措置の延長が決まりました。

それに先だって、文部科学省では「新型コロナウイルス感染症対策としての学校の臨時休業に係る学校運営上の工夫について(通知)」(5月1日)において、分散登校日の設定について、ICTを最大限活用しながら、**感染症対策を徹底した上で**、分散登校(児童生徒を複数のグループに分けた上でそれぞれが限られた時間、日において登校する方法)を行う日を設けることにより、段階的に学校教育活動を再開し、全ての児童生徒が学校において教育を受けられるようにしていくことが重要であることが指摘されました。明日、改めて本校から保護者の皆様に「**休校期間の延長と学校再開にあたっての基本指針(お知らせ)**」をホームページから発出する予定です。

既に本校では、一定期間において、地区別で午前、午後に分けて授業をすることで計画を進めています。先生方にとっては、ダブルヘッダーになり、子供たちや保護者の皆様にはかなり通常と違う通学をお願いすることになりますが、大規模校の本校では「密集」を避ける上ではやはりやむを得ない措置になりそうです。

また、このような分散登校を行う際には、進路の指導の配慮が必要な小学校第6学年・中学校第3学年等の最終学年の児童生徒が優先的に学習活動を開始できるよう配慮すること、併せて、最終学年以外の指導においては、教師による対面での学習支援が特に求められる小学校第1学年の児童にも配慮すること、が指摘されています。本校では、授業開始の開始時期については、全学年同じになるように計画しています。特に1年生については、今後の校内での指導の中で実態に応じて丁寧な指導していくことを基本に考えています。

さて、3月2日から続いた臨時休校の影響は、様々な所に見られますが、私が一番危惧しているのは**子供の心のケア**についてです。

このことは平成23年、東日本大震災後、一時期は減少傾向にあったように思われた不登校やいじめといった問題が、時間の経過とともに増加傾向に転じたことが記憶に新しいからです。学校再開後は、学校での日常を取り戻すことが優先で、子供たちを学校生活に適応させることに日々追われることと思います。特に、入学間もない1年生には、どうしても学校生活への適応を優先せざるを得ない状況が考えられます。同時に、突然日常が奪われた他の学年の子供たちも時間の経過とともに、微妙に心に変化が見られるように思います。学習の遅れを取り戻すことは当然ですが、そのことばかりに目がいくと、肝心の子供たちの心を見失いそうで、ここがやや心配なところですが、私たちがそうだったように、子供には子供の成長のスピードがあって、今はそれをゆっくり取り戻し、学習への意欲を再度持たせていくことがこれからの学校では特に求められます。

もちろん、状況によっては土曜日や夏季休業中の対応も含めて、子供たちの学習の進捗に責任をもってカバーすることが必要です。ただ、その時に、大人の事情だけでそれを進めるのではなく、私たちは目の前の子供の様子や声に耳を傾け、空白の期間を経て学校に戻ってきた子供たちの心に寄り添うことを忘れず、子供と一緒に学校生活を再開することが大切だと考えています。

先日、紹介したNHK ETV 特集「7人の小さき探求者～変わりゆく世界の真ん中で～」で「探求の対話(p4c)」の宮城県内での実践の様子が紹介されました。正直言うと、私は当初(今でも)、あのスタイル(コミュニティーボールを回して対話すること)にどうも違和感があって、しかも前任校(附属小)の道徳に入れることにもかなり抵抗がありました。ただ、それでも取り入れたのは、p4cで大切にしている、セーフティネット(=支持的風土のある学級づくり)という考え方に共感したこと、何より取り入れた学級の子供の姿に変化が見られたこと、そして、ただ批判するのではなく、まず自分がp4cをきちんと知ることが必要だ、と考えたからでした。こうして書いていると

(校長は小野小でもやりたいの?)と思われるかと思いますが、決してそんなことではなく、先生方ももし学級作りや学級経営で悩んだ時に1つのツールとして知っておいて欲しい、というところなんです。夏の日差しを感じるような5月上旬、少しですが、学校再開に向けて今度は力強く一歩を踏み出せそうな気持ちにさせられた5月上旬の「こどもの日」でした。(文責:手代木)